



学校だより 8.9月 第381号

令和4年8月29日 発行

横浜市立六つ川西小学校 (TEL) 742-6301 (FAX) 743-2394

URL <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/mutsukawanishi/>

「平和な景色が映し出される未来」

学校長

「写真を撮る時だけは、マスクを外してね！マスクを外したらお喋りなしよ！」
コロナ禍での行動制限が緩和され、体験学習や修学旅行に出かけられるようになり、同行する写真屋さんが集合写真を撮る機会も増えてきました。

「もちろん、マスクを外したくない人はそのままどうぞ！にっこり笑ってね！」

何度も聞いたこのフレーズと共に、写真屋さんは子どもたちに「1+1 はなーに？」「ハイポーズ」などと盛り上げて声を掛け素早く写真を撮ります。一斉に子どもたちがポージングを決め、にっこり笑って写真に写るまでの手際の良さは見事としか言いようがありません。

そういえば、以前は、集合写真でのポーズ禁止を呼びかけていた写真屋さんも、最近では、真面目？な集合写真と自由なポーズの集合写真の両方を撮影するようになりました。

昭和の時代、遠足集合写真は「きをつけ」をして笑わない写真が定番でしたが、その後、姿勢は「きをつけ」でも、その手はビクトリー（勝利）を意味するVサインになり、多くの子どもたちが写真のフレームに収まるようになってきたことを記憶しています。

Vサインは、いつしかピース（平和）サインと名前を変え、写真撮影のお決まりのポーズとなり、次第に笑顔でピースをするのが当たり前の世の中に変わっていきました。

その後もダブルピースや裏ピース、逆ピースなどを変遷し、指でハートを作る「ゆびハート」のポーズも流行っていたようですが、最近のトレンドは、ほっぺでつくる「片ハート」だそうです。

それぞれ何気ない写真のポーズではありますが、ピースサインやハートのポーズでフレームに収まる日本の子どもたちの笑顔や表情を見ると、いつもほんわかとした安らいだ気持ちが呼び起こされ、「平和」のありがたさを実感します。そして、同時に世界情勢と子どもたちの未来を考え、「世界平和」を願わずにはいられない気持ちになります。

8月6日の朝、テレビで見た平和記念式典では、その「平和宣言」で、広島市の松井市長がロシアの文豪トルストイが残したという「他人の不幸の上に自分の幸福を築いてはならない」との言葉を用い、人の幸福と共にある平和の尊さを訴えていました。

こども代表の小6児童2名は「平和への誓い」で、戦争を避けるために、思いやりや相互理解の気持ちをもつことが大切である事を訴え、それぞれの思いや考えを自分の言葉で力強く発信していました。

国語辞典で「平和」と調べると「争いがなく穏やかであること」と書かれています。

「平和な景色が映し出される未来をつくるため、私たちは行動していくことを誓います。」と声をそろえた代表児童の声が、いつまでも心に響いています。

【学習保障について】六つ川西小学校では、疾病や感染症による出席停止など、何らかの理由でやむを得ず学校に登校できない期間が5日間以上となった場合を目安として、登校しないお子様が、学校生活や学習について不安な気持ちにならないよう、必要に応じてGIGA端末の活用、家庭訪問等を通しての学習支援を実施しています。学習保証ガイドライン <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawanishi/index.cfm/1,3642,c.html/3642/20220825-121201.pdf>

